

子どもの自立・就職に向けて
親ができることを一緒に考えてみませんか？

参加無料

～保護者セミナー～

開催日時

平成30年 **2月24日 (土)**

時間：13:30～16:00

会場：福井県社会福祉センター（福井市光陽2-3-22）



【講師紹介】

スクラム福井

発達障害者地域支援マネジャー、相談員
福井県福井市生まれ。社会福祉士、精神保健福祉士。平成21年より現職。日本設備管理学会就労支援技術研究会委員、福井市発達障害者専門支援者検討会委員など。共著として「発達に気になる子のための自立・就労トレーニング(第7章担当)」(合同出版)。子どもから大人まで幅広く発達障害に関する相談を受けながら支援を行っています。

福井県発達障害児者支援センター スクラム福井

講師：相談員 野村 昌宏 氏

テーマ：「若者の就労と

コミュニケーションについて考える座談会」

内容：講師によるセミナー・意見交換ほか

対象：無職のお子さんを持つご家族の方

定員：20名（事前にサポステふくいまで申し込み下さい）



日時：平成29年12月16日(土) 12月開催のセミナーレポート

テーマ：「人の育ちから考える」

講師：若狭ものづくり美学舎 代表 長谷 光城 氏

長谷先生は、長年、教育に携わった経験から、今の若者は、自分の能力・将来に対して不安が大きいことが特徴にあり、ここ40年程で、社会は利便性・効率・成果を追求し、変化が大きいことを指摘されました。そんな世の中で若者が壁にぶち当たった時、その状況をどう理解し、どう関わればよいかという話をされました。人は遺伝子レベルでもって生まれた性質があり、それがさまざまな体験により成長していくことを考えると、感情が出来上がる9歳までの発達期間に、幼児期から自然の中でふれあうことや人との関わりの中で養われる五感は大変重要です。特に、皮膚感覚は、体・心・頭を育てます。人は思春期以降、発達や成長の上で、性や生（職業）で悩むものですが、幼少期の体験が不十分だと順調な成長に影響し、社会に出る妨げにもなります。

成長が不十分な場合、退行を起こします。そういった壁にぶち当たった時、どうしたらよいか？根源的な喜びを体験させること、言い換えると、自然に触れさせ体験の積み直しをします。そうして、社会に出る意欲が育った若者を、長谷先生は多く見守ってこられたとのことでした。

その後、参加者の皆さんから、様々なご意見がありました。先生からは、家族関係の一角が崩れると本人に変化が見られることもあり、親でなく、友人などまわりの関係が刺激となり、動き出す場合があったと話されました。本人のやりたいことをさせてやること。親として、子どもを信じること、環境を整えてあげることが大切だと、意見交換の最後に締め括られました。

サポステふくいは、厚生労働省の委託事業で、福井県との協働で若年無業者の方の職業的自立支援を行っています。

ふくい若者サポートステーション（サポステふくい）

福井市光陽2丁目3-22 TEL：0776-21-0311

（受付時間 月～金 9:00～17:00） E-mail: info@fukui-yss.com